

橋爪紳也委員からの意見・提案

岡崎地域活性化の考え方

- 地域ブランド戦略及び地域をプロデュースするという発想と実践が求められる。
 - ・「岡崎」の地域ブランド戦略が必要。
 - ・そのためにも「岡崎」をプロデュースする主体の構築が必要。
 - ・「岡崎」を創造するために、市民・企業・公共問わず、新たな担い手の巻き込みが必要。
 - ・「岡崎」を創造するために、各種の緩和策が必要。
 - ・「岡崎」を創造し、タウンマネジメントをするための財源確保の具体策が必要。例えば従来にない寄付制度や祝祭の特別観覧席収入など。

- 重点的な市民・行政が連携する岡崎魅力創造プロジェクト（例えば7～10本の柱となるプロジェクトなど）を示し、主体を明確にし、財源確保に知恵と具体策を。

(以下例示)

岡崎地域ブランド創造プロジェクト

水路の魅力向上プロジェクト

街路の「ひろば」化プロジェクト

重要文化的景観を楽しむプロジェクト

伝統芸能や武道と親しむプロジェクト

早朝や夜の岡崎魅力向上プロジェクト

ラグジュアリー層誘致を意識した国際的なMICE環境整備プロジェクト

……

岡崎地域活性化ビジョン検討にあたっての意見・提案

森本幸裕

4つの概念

- 1) 山紫水明：岡崎そのものだけでなく、背景としての山なみ、水の恵みを尊重する。
- 2) 庭園都市：無隣庵（無鄰菴）が開いた借景庭園をさらに岡崎庭園、京都庭園に。
- 3) 生物共生：平安神宮神苑の豊かな生物相、桜の生み出す福利、経済効果に注目。
- 4) 景観生態：パターンだけでなく、プロセス（日射・風・水の流れと攪乱）の重要性

コメント

- 1) 平安京以来、背山臨水の風水都市の盆地景観は景観行政で保全されてきたが、山の恵みを適切に使わなくなっていることが、大文字送り火のマツの枯渇、祇園祭のチマキザサ危機を招いた。現在のすさまじいナラ枯れは老齡過熟放置薪炭林のメタボリックシンドローム。背景林の「木使い文化」の発展に貢献がほしい。疏水の恵みに感謝しつつ、琵琶湖の自然再生との連携がほしい。
- 2) 東山―疏水―岡崎の自然資源を活かした重要文化的景観の評価とともに、その利用コンテンツの新たな充実がほしい。各種プログラムのプロポーザルの公募も。現在の地域に配慮しつつ、新たな参入を拒まない。
- 3) 水と緑の優れたデザインと適切な管理が、豊かな生物多様性とその恵みの持続的な享受に不可欠である。単に花のみを意識する桜管理ではなく、トータルなランドスケープ管理が必要。（疏水の桜古木の空洞には時に絶滅危惧種のチョウ、キマダラルリツバメがハシブトシリアゲアリと共生）
- 4) 水辺、エコトーン（推移帯）、中規模攪乱、が生物多様性確保のキーワード。最も危機に瀕した生態系・生物多様性が淡水生態系であることを踏まえ、気候変動に対する「賢い適応」としての、水面の確保、雨水浸透と遊水地機能の付与とを共に実現する空間デザインがほしい。